

第五章 田園都市論及地方計畫論

第一節 田園都市 (Garden City)

田園都市とは田園の中に在る鄙びたる都市と言ふ意味ではない、又大部分の郊外に於ける一團の住宅地を謂ふのでもない。之等は何れも只不便の外に何物をも意味しない、抑も田園都市が都市計畫上重要な位置を占むるに至つたのは、近代の産業的國家に於ける産業都市の計畫に付いて、古來の都市生活の傳統的理想と相一致する點があるからである。然して都市は生活をなす上に又活動をなす上に便利で衛生的で、且美しく愉快なる場所であればならぬ。田園都市の主張する所は、實に茲に在りて都市計畫の理想も亦茲に在るのである。

田園都市なる言葉を始めて用ひたのは紐育の Alexander T Stewart が 1869 年其使用人及其他紐育の労働者の爲めに、模範的住宅を經營して理想的都市を建設すべき目的を以て Long island の Hampstead に八千エーカーの土地を購入して鐵道を敷設して、紐育市と連絡し、中央には中央公園、中央停車場、俱樂部等を設け廣き並木道を築造して以て、之を “Garden City” と呼んだのに始まつた元來此ステュアートは此所に工場を設ける意思はなく、當初は純然たる郊外住宅地として發展せしめたのであるが、現在は數多の大工場が建設され一つの田園都市を形造つて居るのである。

第二節 ホワードの田園都市論

英國に於て田園都市なる語が用ひらるゝに至つたのは、實に 1898 年倫敦に於て出版された Ebenezer Howard の “To-morrow” に現はれてからである。1902 年 “Garden City of To-morrow” と改題せられたが、今日の英國に於ける田園都市の觀念は、此ホワードの提唱から來て居るのである。ホワードの理想は都市を

田園化する事が不可能ならば、寧ろ田園を凡て市街化すべしとの原理を理想として田園都市なる思想を認識し且効果的に發表した。然してホワードはボンビル及ポートサンライトが如何に衛生的なるかを見て、郊外住宅の都會生活者に比して死亡率に於ても著しく異なるに鑑み、又大工業都市の各種の弊害を説き、新しき都市即田園都市の建設の必要なる事を痛感し、之れが實現運動を主張し、英國の都市計畫運動を更に一段と進歩せしめた。然して其模型的都市として收容人口三萬二千人を限度とし、面積六千エーカーの内、一千エーカーを市街地とし、其他は空地とする計畫で中央公園に接して、公共建築物を集中せしめ、其周圍を住宅地域とし、之を圓形に配列せしめ、更に其外圍は工業地域を以て繞らし市街地は、凡そ直徑一哩半で其外縁は全部農業地帯とするのである。如斯ホワードの思想は歸着する所、都市生活と田園生活との健康にして、自然的なる且經濟的なる聯結にあるのである。即從來は都市生活か然らざれば農村生活か、此二者の一つを選ばねばならなかつたが、今は茲に第三の方策がある事を發見した。即其れは最も活動力ある都市生活の凡ての利益が田園の楽しさ、美しさと完全に結び付くものなりと稱せらるゝものである。是れ即ホワードの所論の骨子である。而して斯かる思想の生れた所以のものは、大都市の弊害即經濟的に日常都市生活者が受くる時間的に、又物質的の損失の相當大なるものがあるを感ぜずには居られぬ、例へば市内の交通混雜の爲め受くる時間の浪費や、又經濟的に市内に居住し得ざる労働者が、其通勤に要する日常の交通費等は通勤者の相當負擔である。又大都市は塵埃に充ち喧噪にして且醜惡而かも自然に遠かる事極めて大きい、又大都市は餘りに成長し過ぎて纏りなく、従つて自治の觀念は減退し何等の傳統もなければ理想もない。一方に於て農村の衰微日増に進んで、進歩流行等は悉く都市の集中する所となり、都市の街路は通行人を以て満たされ、新聞は一日に數回も發行せらるゝも、之に反して農村は多くは陰鬱にして極めて單調、且何等の刺激もない。然るに都市は多くは紛然雜然として商店の色彩は次第に濃厚になり、寸時も

他に遅れざらんことを恐れ協同と敵愾心とが相交錯して種々興味ある波紋を描きつゝある。然して大都市に在りては、其周圍部の或地點が中心となり、所謂地方的中心を形造つて、當初の間は市の中樞部とは全く無關係に發達するものなるが何時しか兩者相連なりて全く一つの都市の中に包含せらるゝに至る。斯くして過大都市なるものが出來上る。而して此過大都市は交通上、衛生上、保安上乃至經濟上全く收拾すべからざるに至るは、世界各國其經驗は餘りにも豊富である。然し乍ら都市は工場及人口に對して、一種の社會的吸引力を有するものなるが故に、人口の都市集中の現象は自然の勢であつて、人爲の如何とも致し難き事象である。元來設備の整ふた小都市は敢て大都市に譲らざる種々の特點を有するものであるけれ共、斯かる都市は極めて少い。従來の都市は種々の點に於て近代的都市の要求に應ぜんとせば、多額の改良費を要するものである。従つて一個の工場も都市の利便と勞働の貯藏と廉價なる土地を求めんと欲せば、勢ひ放射路線に沿ふた郊外地に其居を構へざるを得ざるに至る。斯くして工場分散論が行はるゝに至つた。斯くして田園郊外住宅又は田園工場等の計畫が案出された、然して此企ては十九世紀を通じて各所に試みられた。殊にボーンビル及ポートサンライトに於けるものは、最も有名なもので且重要なるものであつた。ホワードは是等の經驗を経て遂に一つの田園都市なる新しき思想の實現に到達した。歐洲大戰後歐洲各國に於ける住宅問題は殊に喧しくなり、住宅經營地又は投機的土地會社等にも田園都市なる名稱を附するに至つた。斯くして其の意味は誤解せらるゝに至つたから遂に1920年田園都市協會は次の定義を下した。即田園都市は衛生的生活と産業の爲めに設計せられたる都市にして、其大さは社會生活上充分なる活動を可能ならしめ、而も其れより大ならず且農業地帯を以て圍繞せられ、土地は公有又は公共團體の爲めに委託されたるものであること尙此定義の内容を考察すると、大體次に述ぶるが如き五要素からなつて居ると見る事が出来る。

(1) 田園都市は只一つの都市であつて、村落若くは郊外地ではない。其意味

明確に都市的又は共同の生活を有し、且都市特有の經濟的並に其他の特徴を持つてをすることを要す。

(2) 夫れは都市の計畫を有し其内の凡ての人の爲め並に工業の爲に衛生的生活の設備が施されてあること。

(3) 而して此都市は社會的並に經濟的に市民が利益を享受し得るに必要な面積を有すること。

(4) 田園又は農業地帯を以て圍繞せらるゝを以て、永久に農村的の利益を享受し得ること、且農業は都市經濟の一部をなすものである。

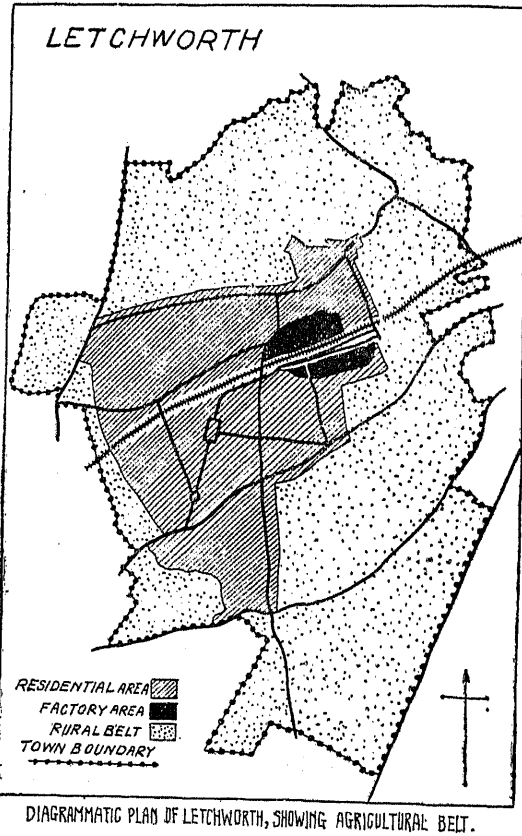
(5) 全體の土地は公有又は公共團體の爲めに、委託せられて居る事。

第三節 第一田園都市レッチウオース

ホワードの明日の田園都市なる論文が世に紹介せられたるに及んで、大都市の各種の弊害を痛感し、何等かの轉換策に腐心しつゝありし英國の都市經營家は忽ち之に共鳴し恰も暗夜に燈を得たるが如き感に懷かれ、此の田園都市論の思想を徹底せしめんが爲めに田園都市協會を設立した、而して1903年の會社法 Company Act に依り創立せられたる第一田園都市株式會社は、ハートフォードシャーのレッチウオースに廣大なる面積の土地を購入し、田園都市を經營するに及んで、田園都市論は一個の理想的抽象論から具體的實證を有するに至つた。然して此第一田園都市會社の經營するレッチウオースは、倫敦を距る三十四哩の北部に位し、大北鐵道の沿線に位置し1904年の創立に係り資本金三十萬鎊にして四千五百エーカーの地域を有し各種工場と、人口三萬人を收容する都市を建設せんとした土地は、極めて高燥にして海拔三百呎に位置し、既に三分の一は開發せられ、殘餘は農業地として保存せられて居る。(第7圖)株主の配當は五鎊を限度とし、剩餘あれば町全體の改良資金に充當する事になつて居る。レッチウオースは今や人口一萬二千人(1922年)の都市として發達しつゝある。其住民の

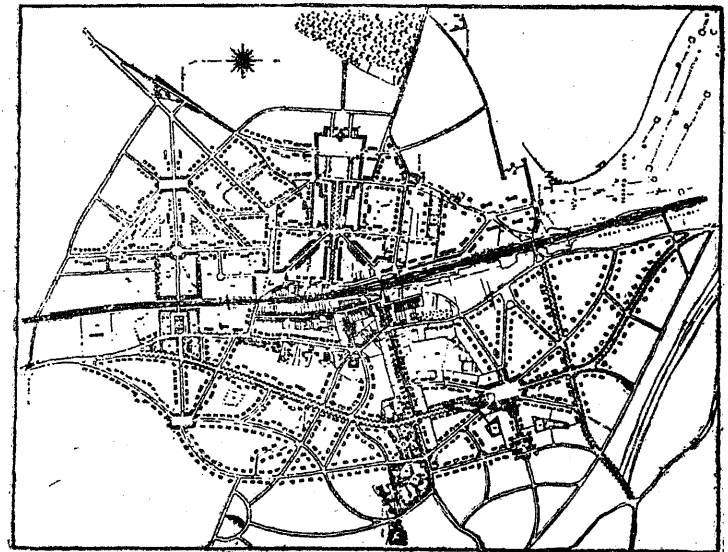
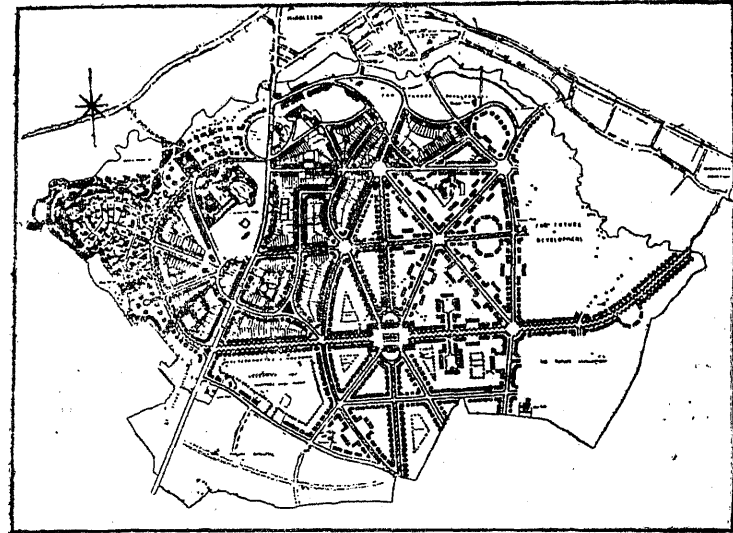
大部分は工場労働者にして
 而も其工場は各種の方面に
 亘り、或は印刷工場あり、
 製本工場あり、又は自動車
 工場ありコルセット工場あ
 り、其他種々の輕工業が經
 營せられて居る。然して各
 工場は何れも比較的小規模
 にして、多くも二百人乃至
 四百人の職工を有して、其
 種類が極めて多種多様であ
 る、一體都市の住民全部が
 或一種類の職業に従事する
 事は頗る危険であると言は
 れて居る。明暮見聞する所
 のものが、凡て之れ其職業
 の範圍を脱せざるが故に、
 都市住民は斯かる場合は數
 年ならずして精神的に又技

レッチウオース市に於ける
市街地と農耕地との關係



第 7 圖

術的にも一種の不具者となつて仕舞ふ恐れがある。レッチウオースの工業が多種多方面に亘つて居る事は實に都市としての安全と權衡を確保する所以である。勿論住民中には市内の工場とは全然關係を持たぬ人もなきに非らざるも、斯くの如くしてレッチウオースの社會生活は都市計畫の効果を、充分に味ふ事が出来る様に思はれる、此町には未だ一個の不良住宅もなく、田園雰圍氣が充分に漂ふて居る。然かも獨立性なき市街地又は郊外住宅とは、全く其趣を異にし全く自治體の



Plans of two typical English garden cities. Above, Alkington Estate; below, Knebworth Estate.

第 8 圖

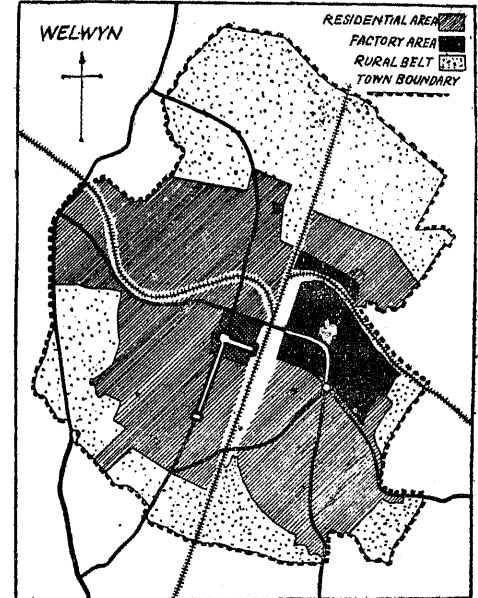
一単位として、完全なる有機體としての都市的特徴を悉く具備して居る事が窺はれる、又都市的施設の方面から見るも、レッチウオースは鑿井に依る完全なる水道と及下水道の設備をも完備して居る。瓦斯及び電氣は會社の供給する所となり公課も比較的安い。又道路は幅員廣くして並木道及公園道は面積二百エーカーの空地及運動場と共に、市民の交通衛生施設として完成されて居る。斯くレッチウオースは實に科學的に設計せられたる、最も衛生的な住宅及工業町である、と云ふ事が出来る。死亡率は英國全體の平均千人に付、十四人三分に對し僅かに七人四分を示し、又幼児死亡率は八十人に對し四十四人である事は上記の事柄を證明するものである。

第四節 田園都市ウエルウイン

1920年ウエルウインに第二田園都市が建設せらるゝに至る迄、レッチウオースは世界唯一の田園都市の名稱を名實共に恣にして居た。ウエルウインは倫敦の北郊二十一哩の所に位し、ハートフォートシャー州に在る、此所に新しき獨立した工業都市を建設して以て、大都市倫敦の工業並に人口の膨脹に備へんとした、尙當時英國は大戦後の影響を受け、住宅の大拂底を告げ國家事業として住宅建築が考慮され、各地方廳をして之が建築に當らしめたるに何れも大都市附近にては舊態に倣つて、郊外住宅として建築すべく進行した。然るに是等の大都市は既に充分生成し切つた所謂過大都市の状態になりつゝある都市であるから、之以上其周圍部に住宅を建築せんか過大都市の弊を益々助長せしむるのみである。元來田園郊外住宅なるものが都市經營上決して理想的のものに非ざることは前述の如くであつて、住宅問題否社會問題としても完全なる解決策ではない。田園郊外はテネメント・ハウスには勝ることあるも、都市の中心から餘りに距離が遠い爲めに、朝夕の通勤には労働者は多くは時間的に又經濟的に大なる負擔となる事は免れない。茲に於てウエルウインは住宅建築に對して特に注意を拂ふと共に、

又工業上の利便に重きを置いた。即衛生的設備の完備は勿論工場は交通上便利にして、職工住宅から極めて短時間に到達し得る様、科學的に計畫されたのである、(第9圖)又宅地として利用すべき區域を限定し、其所には永久に周圍に農業地帯を保存してある。計畫收容人口は、四萬人を限度とし、都市民には社會的慰樂及び都市的要求は凡て満足せしむる様、且倫敦から全く獨立した自治的都市を創造せんとせる所が、其の最大目的となつて居る。ウエルウイン田園

ウエルウイン市に於ける
市街地と農耕地との關係



DIAGRAMMATIC PLAN OF WELWYN, SHOWING AGRICULTURAL BELT.

第 9 圖

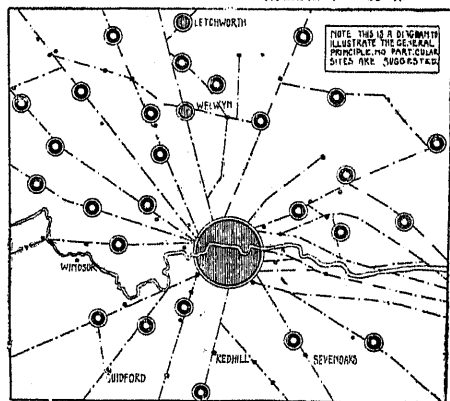
都市會社は、1920年の創立に係り2,383エーカーの土地を有し、完成の際は人口四萬人を收容する計畫にして、1926年には1,675の家屋が建築せられた内七十八は工業及商業の目的を以て建てられた、現在人口5,020人である。然して株主に對する配當は七厘に限定され、餘剰収入は都市全體の改良費に充當する事になつて居る。

第五節 衛星都市論 (Satellite Town planning)

衛星都市なる名稱は1915年 G. R. Taylor's Satellite City に表はれたのが始めである。彼は其著書に最近米國各都市の工業が、都市の密集地區から漸次離れて附近の田舎に移り、其所にある特種工場を中心とする、工場町が建設せられる傾向にある事を指摘した。市俄古、セントルイス等に此例を見る、即大都市を

母體として、其都市の周圍に殆ど天文に於ける恒星の周圍にある衛星に類する事から、之を Mother town に對して Daughter town 又は衛星都市と稱する様になつた、然して今日衛星都市論が都市計畫に關して、喧しく論議せらるゝに至つたのは、歐洲大戰後田園都市計畫論を更に擴大して、一般的ならしむる爲めに、田園都市を大都市に對する、衛星都市たらしむべく説明するに至つた事に因由して居る。衛星都市も夫自體としては、衛星都市として考ふる事は不可能である。何故とならば如何なる小都市も大都市の影響の下に成立するものは、衛星都市として説明する事が出来ないからである。然しパードムの如きは、田園都市とは衛星都市と同意義に用ひて居る。パードムは衛星都市とは其言葉の全體の意味に於ては夫自身の協同生活を持つた獨立した都市であつて、現代都市の經濟的社會的教化的性質を有し、同時に大都市による依存の關係を有する同格の都市を有するものである。之れは村落ではなく、又他の都市に吸収さるゝ如何なる形式の市街でもない、又其種の郊外住宅でもない、衛星とは天文學的意味に用ひらるゝ言葉であつて、より強大なる都市の影響の下にあるが、其支配を受くるものではなく、全く獨立したものである、レツチウオース及ウエルウインの田園都市は全く倫敦を中心とする衛星都市(第10圖)の關係にあるのである。此事は田園都市論者も、

ロンドンを中心とする衛星都市の分布



第 10 圖

大に力説する所であつて、大都市の分散とか又は工場の分散は、田園都市理論による衛星都市建設によつて解決すべしとなすものである。米國に於ける衛星都市の例としては、シンシナターの東方九哩にあるメリモンドが192年にJ. Nolen に依りて設計されたものがある。英國に於ては大戦後の住宅

計畫に衛星都市に類するものを計畫したが、綜合的計畫は勿論、有機的計畫にしても、缺くる所ありて幾多の缺點を有してをる、只労働者住宅を主として計畫されたるものなれば、都市としての要素を缺くるものがある。倫敦府により計畫されたるエセツクスの市街地計畫は其完成には至らなかつたが、田園都市或は衛星都市とする考へを以て始めたが、實際住宅も相當建築されたが、何等獨立した都市生活の計畫がなく、只労働者住宅のみにて都市の凡ての階級の住宅もなければ、又農業地帯もなく、又將來の工業地域の計畫もない、更に倫敦郊外の合宿町として考へても、それには交通機關が不備である。

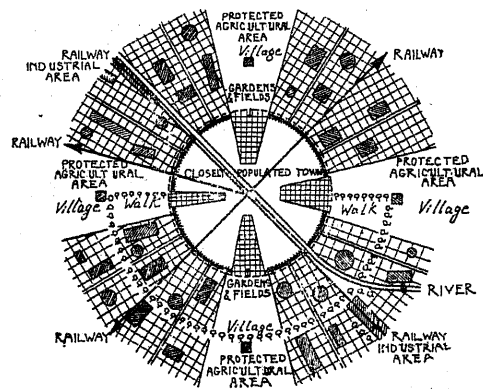
此他田園都市の思想を以て大都市の郊外に、夫々田園都市又は田園郊外を建設したものは、丁抹のコペンハーゲン 附近の計畫、諾威のトロンヂエム 附近の計畫、獨逸のクルツプ工場の田園村落の計畫等がある。

第六節 其他の都市計畫理論

アドルフ・ラーデング教授は、ブレスラウ市及其附近の都市の關係を研究した結果、第11圖に示すが如き

アドルフ・ラーデング教授の大都市の理想的計畫

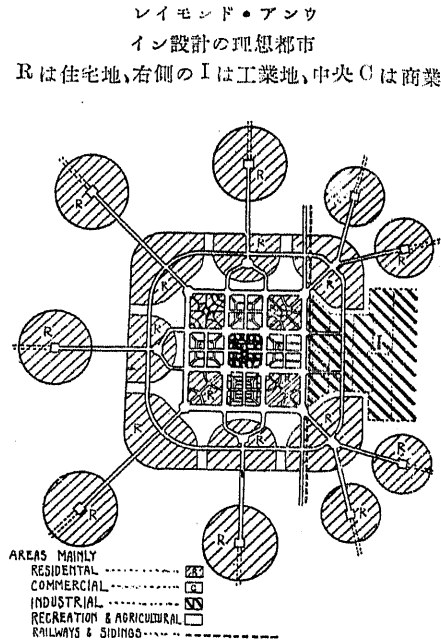
理論的都市を設計した。即中心部の比較的人口稠密なる部分は、其面積を一定限度に制限し、放射狀に農業地帯を留保し、其間に田園住宅地を介在せしめ、鐵道に沿ふては工場を設置せしめる計畫であつて、大ブレスラウ市の郊外に如斯中心を形成しつゝ、衛星都市として、發達せしむべき



第 11 圖

ものなりと説明したものである。

又レイモンド・アンウインは之を郊外に適用したものであつて、田園都市の發達に付て、説明したもので、第 12 圖に示す如きもので最も有名なものである。然して其理想としては要するに清淨なる空氣、休養及自然との接觸を保つべく、充分なる土地を得る爲めに出来る丈、離れた或中心の周りに群集した獨立した郊外住宅地によりて都市の膨脹を導かんとするものである。

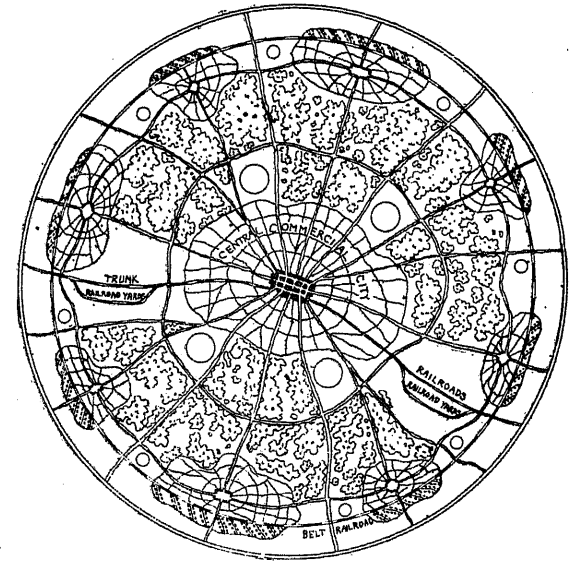


第 12 圖

又ロバート・ホキツトンの衛星都市論は、(第 13 圖)はアンウインの理想に似て居るが、更に發達して田園都市の理想に近くなつたものである。彼れの衛星都市論に従へば中心となるべき都市は、數多の獨立したる郊外地又は衛星都市に依りて圍まれてをる。是等の衛星都市の永久的に分離したる存在は、是等を中心都市及互に分離して居る所の廣き空地帯によつて確保されたものであつて、此空地帯は從來田園都市論に於て、提唱されたる農業地帯とは多少其趣を異にし、主として都市的並に半都市的生活に用ひらるべき土地である。即大公園、公園道路、運動場、森林保存地、ゴルフ場、墓地、水道水源地、飛行機發着場、農園、遊園地、下水處分場、各種娛樂場、植物園、動物園、鐵道の車庫又は操車場等の敷地に使用せらるべきものである。空地帯の斯くの如き用途と衛星都市の永久的維持と、及此種の半空地帯の保存地は將來の運輸交通機關の急激なる發達と、改良等に備へらるものなりと説明して居

る。勿論上述の要求を精確に豫見することは頗る困難であるが、都市將來の發展に對して是等の多くの空地帯が必要であることは確め得らるべきものである。然して其中心都市は商業と工業に従事する人々の住宅に用ひらるゝ郊外の衛星都市は主として工業と是等に従事する労働者の住宅に充てられる。此配置

ロバート・ホキツトンの衛星都市の理論を模型的に示したるもの



第 13 圖

は交通問題及住宅問題を極めて少ならしめ、且商工業の能率を著しく増進せしむるものである。更に各種工業と他の凡ての都市活動は、各の郊外都市の間に適當に配分せられ、調和されねばならぬ。然して此の議論は、1924年和蘭アムステルダムに於て開かれたる萬國都市計畫會議に於ける決議によりて確實に支持せられ、今日は既に世界の都市計畫の一法則として一般に認めらるゝに至つた。然して其決議の要項は次の如くである。

- (1) 無制限なる大都市の膨脹は望ましくない、過大都市の狀況は適度の大きさの都市に對する有力なる警告である。
- (2) 過大都市の發生を防止する方法として、衛星都市による人口の分散方法を講ぜざる可らず。
- (3) 都市の建物ある部分を綠樹帯を以て圍み、之れを農業牧畜等に用ふる爲

めに保存し、無限の蔓の波を造る事を防止する事は極めて望ましい事である。

(4) 交通の急激なる發達 殊に自動車、乗合自動車の發達は、局部的にも又都市の間にも、將來の交通問題に對し特別の注意を要す。

(5) 地方計畫の準備は大都市の發達の爲めに必要である、特に夫等の都市が互に接近して居るか、又は多くの小都市が大都市の附近に存する場合には、一層必要である。斯様な地方計畫には(2)(3)(4)に付いて殊に注意を拂はねばならぬ。

(6) 地方計畫は弾力性を有し、事情の變化に應じて變更せねばならぬ。但斯る變更は公益上の理由ある場合に限られて居る。

(7) 都市及地方計畫に關して一定の地域が定められた土地は其計畫が有効である限りは、其用途に供せらるゝ事を確保する事を得る權力を與へられる事が必要である。

斯くして此決議は衛星都市論を支持すると共に、最近發達しつゝある地方計畫論をも共に支持する事となり、今日の都市計畫の趨勢が人口の都市集中の弊に鑑み、過大都市の發生を防止すべく寧ろ人口の適當な分散に向つて、進展しつゝある事を指示するものである。

第七節 地方計畫論 (Regional Planning)

第一項 地方計畫の意義

最近都市計畫の思潮は大都市計畫主義 Metropolitan Planning と小都市計畫主義即田園都市計畫 Garden City との二大潮流に對立して居る形態に在つたが、遂には前にも述べたる Taylor の衛星都市の形となり、更には都市の分散論に迄進展した。元來田園都市の運動も、元は大都市集中の反動から起つたものであるが故に其自體大都市と全然無關係に發達したものではない、其れ故田園都市論者も直に衛星都市論の思想を取入れ田園都市は、矢張一つの衛星都市なりとの説をな

すに至つた。現にレツチウオース及ウエルウインも共に、倫敦の衛星都市として存在するものなる事を主張する様になつた。然るに一方大都市計畫の實際を觀察するに、大都市に在りては都市を改良すればする程、益々膨脹し人口は愈々集積し、又道路は擴張に次ぐに擴張を以てするも、依然として交通の混雜及交通事故の減少を望む事が出来ない。且又市民の負擔も人口の増加に伴ひて益々増加し事實上大都市計畫事業は其進捗と共に人口は増加し、交通施設の普及と共に混雜と事故が増加して、殆ど其底止する所を知らざる状態で、全く大都市計畫は事實上行詰りの状態にありと見らるゝに至つた。斯くして大都市計畫の行詰りは新しき助勢を人口の分散主義に見出したのである。然して如斯對立したる二つの運動が新らしき方向に向つて、共力して進むべき道を發見した。斯くして最近の都市計畫の思想は、今や茲に合流して新なる發足へと進みつゝある趨勢に在る、實に地方計畫とは此新運動に付けたる名稱であつて、詳しくは大都市及其地方の計畫の意味である。

Regional Planning は上述の課程を経て發達せるものであるが、特に此運動が判然となつたのは、極めて最近の事柄である、即 1910 年英國のケデス博士が衛生會議に於て、「人口分布圖と其意義」に付てより廣き地域に於ける居住人口の觀察の必要を論じ、且地域調査の必要を述べたに始まつた、此論文は氏の著「都市の進化」(1921 年)に詳述して居る。而し當時は未だ地方計畫なる言葉を用ひて居らぬ。1912 年シュミットはテヌツメルドルフの一般計畫の必要を説き、1919 年エツセン市長ルーナーはルール地方に此計畫を應用した。斯くして大戰後此思想が各國に於て次第に發達した。

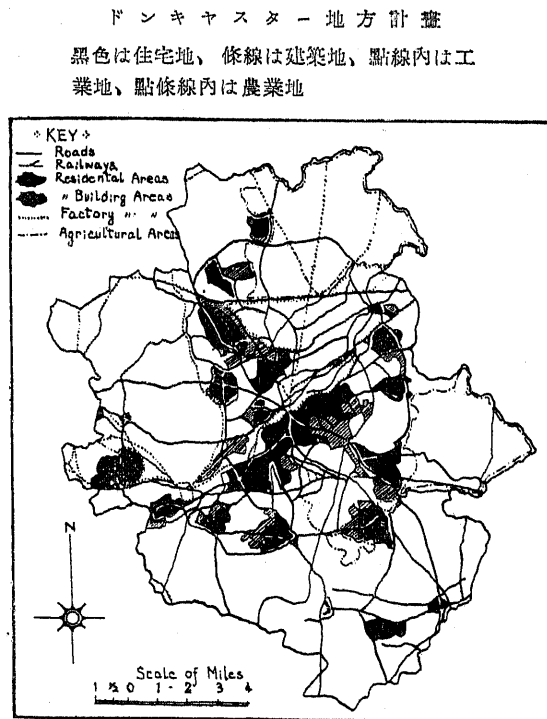
第二項 英國に於ける地方計畫運動

1919 年衛生大臣アデイソンは地方計畫に付て述べて曰く、廣い田舎の都市に於て行はるゝ都市計畫は、都市單獨では其發達を調節するには單位が餘りに小さ過ぎる、然して地方廳の政治的區劃は地理的、工業的又は經濟的單位の範圍と一致せず、然して後者の範圍は比較的廣く數多の都市及田舎の廣き地域を包含するものなりと云つて居る。1919 年改正の Housing and Town Planning Act には地方廳に於て、都市計畫の聯合委員會を組織する事を認めた。斯くして各地方に於

て所謂地方計畫が行はれ、各地方委員會の設立を促した一面、英國に於ける傳統的悩みとされた Slum の問題の解決策として、大都市の附近に自給自足の田園都市の建設が唱導され而して Slum 問題は倫敦、バーミンガム、リーズ、リバープール、カーディフ、等の數都市を調査した結果、住居、交通、及是等の分布並に商業及工業等の將來の發展の趨勢を大所高所より、視界を大にして考察するに非ざれば、完全なる解決策を爲すには至難なりとの結論に到達した。倫敦に於ては五十萬人が不適當なる住居に住ひ、バーミンガムには四萬戸の棟制長屋がある、リーズには七萬二千人の約半

數が1エーカーに付、七八十戸の稠密状態に住んで居る。即貧民窟問題の解決策は都市及其附近が一致して、地方的觀察の下に行はざる可らざる事を意味するものである。英國最初の地方計畫は Aber Clombee に依りて調査されたる Doncaster Coal Region (第14圖) に關するものである。此計畫はドンカスターを中心として半徑十哩の地域

に亘り各都市の人口は一萬五千人乃至二萬人位を推奨して居る。ドンカスターは現在人口六萬人を包擁して居る。而して彼等の主張する都市の大きさは、地方的自活團體的生活の利便を完全に享受するに適當なる大きさであり、且其全體の地方の人



第 14 圖

口があれば、ドンカスターに一流の劇場音樂堂及其他大都市の有する愉樂設備を、充分に經營する事が出來ると考へた。彼等は更に新しき町は母市ドンカスターから全く分離した都市としては取扱はれてはならぬ事を希望して居る。Aber Clombee は更に Chester 市を中心とする Dee 河に沿ふた半徑三十哩に亘る廣大なる地域を有する Dee Side Regional Planning を調査した 1923 年の調査に依りて之は新しき衛星都市としての計畫はないが、全面積の地理及將來工業の發達の關係等に付て良く考察されて居る。此綜合的調査は將來發達すべき導線を示して、共に現在の状況を記録するに止まらず、將來の生長線をも豫見せしむるものならざる可らずと考へて居る。

此他英國に於ては、各地方に地方計畫委員會が組織せられて、現在既に 696 團體に及び是等が 52 地方委員會の下に統制されて居る。然して此内に含まるゝ人口總數二千萬人、其面積實に八百十三萬エーカーに及んで居る。第 10 表は其一覽を示す。

第 10 表 英國地方計畫一覽

北 部 地 方	設立年	市町 村數	面積1921 エーカー	人 口 (1921)
ドンキヤスター	1920	8	108,465	139,933
マンチェスター	21	96	633,361	2,782,394
サウス・ティースサイド	21	7	38,707	210,262
テイサイド	21	6	67,558	81,716
サウス・タインサイド	22	16	99,401	741,728
ノース・タインサイド	22	14	137,237	533,887
ローザーハム	22	7	67,856	156,064
ザイラル半島	22	8	59,653	315,780
ランキヤスター及びモアカム	23	5	68,188	77,328
リーズ及びブラッドフォード	23	43	249,743	1,226,495
ノース・ティースサイド	24	3	20,583	75,511
グレートクロスビー及びノイストリクト	24	4	14,937	64,374
ノースイーストラシカシヤイヤ	25	21	157,164	510,573
プレストン及びノイストリクト	26	5	62,273	166,403
ファイルドリーヤオン	27	8	113,482	165,115

サウス・ウエストランカシヤイヤ	27	18	105,984	1,242,846
シユフィールド	27	11	103,224	657,237
レイグデイストリクト(サウス)	27	4	187,283	30,162
中部地方				
マンスフィールド	22	7	81,172	93,753
ノッチンガム	23	13	174,375	414,261
ミドランツ	23	67	854,640	2,407,487
ノース・メタツフオードシヤイヤ	24	14	272,396	454,984
チェスターフィールド	24	8	115,175	186,443
ミッドチェシヤイヤ	26	13	377,911	217,070
ウツドフリツヂ	27	2	1,554	—
南部地方				
ウエスト・シツドルセツクス	22	16	72,208	408,194
ノースイーストサーレイ	22	12	80,889	484,291
タイムス・ウアレイ	22	12	31,580	266,920
サウスエセツクス	23	12	187,227	603,047
イーストケント	23	17	185,995	298,938
プリストール・ボンドダイストリクト	24	14	321,525	619,105
ヴオジグエンドダイストリクト	24	3	15,156	41,455
ノースウエストケント	24	15	161,613	322,460
サウス・ウエストケント	25	10	225,807	157,157
ハートフオードシヤイヤ	25	35	404,523	333,195
アルンデル・エンド・ダイストリクト	26	5	96,683	50,307
アツシイ・エンド・クトフオード	26	2	5,383	—
ミド・サーレイ	26	6	104,502	87,846
ノース・イースト・ケント	26	15	211,934	295,715
ブライトン・エンド・ダイストリクト	26	9	33,852	223,608
ウエスト・サーレイ	26	7	149,305	113,408
ノース・ウエストサーレイ	26	7	61,145	91,676
ノースミツドルセツクス	26	16	71,967	809,257
ミッドハートフオードシヤイヤ	27	3	15,521	—
サウス・バツキングナムシヤイヤ	27	13	214,361	217,352
イーストボーンエンドダイストリクト	—	4	100,104	93,291
パークシヤイヤ	27	15	323,773	173,573
サウクス・イースト・セセツクス	27	8	151,616	121,694
ウエールス				

イーストグラモルガン	23	15	221,034	812,579
ミドグラモルガン	23	7	110,579	113,571
アブアンメントニーズ	23	4	90,794	118,626
ウエストグラモルガン	24	8	230,190	318,254
總計	五十二地方計畫委員會		696	8,131,593
			20,170,330	

第三項 獨逸に於ける地方計畫運動

獨逸に於ては 1920 年エツセンを中心とする所謂ルール地方計畫委員會が組織せられ、18 の都市の區域と 18 の村落區域とが自發的に、聯盟をなして其地方の開発計畫を定めた、其範圍は、長さ百二十五基米幅二十五乃至五十基米に亘り、既に開發せられたる炭鑛區の内にて 334 萬人の人口が 2,093 平方基米の中に住んで居る。而して此聯盟の目的は建物の秩序ある發達を、警察權の取締りに依りて効果的ならしむる事、即社會的に並に經濟的に利益を互に平衡ならしめ、且調和させる事にあつた、夫故に聯盟の仕事は交通系統の決定、空地の保存、並に其維持改善鐵道軌道の敷設を奨励する事、未開地の區劃整理の認可、並に道路工事をなす事、而して聯盟は全般的計畫をなし、且強制力を有し、各地方に君臨した。斯くて聯盟組織の法律は、地方計畫の著大なる發展をなした。

1911 年伯林及其附近の市町村は 3,500 平方基米の廣大なる地域に人口四百二十萬を包擁する大伯林聯盟を作つたが、1920 年更に 880 平方基米人口四百萬人の大伯林市が統一された茲に於て、田園都市並に衛星都市計畫網が益々實現性を帯び來り、次て各地に此計畫運動が起り、遂に漢堡、デツセルドルフ、ケルン、カールスルーエ、ストツツガルト等に其實行を見るに至つた。

第四項 米國に於ける地方計畫運動

米國に於ける地方計畫論は、工場分散主義による衛星都市の理論によるものとボストンに於けるが如き、大都市計畫主義によるものとの二大傾向を見る事が出来る。ボストンの大都市計畫は今日より見れば、此亦一種の地方計畫と見る事が出来る即 1898 年設立されたボストン大公園委員會は、半径十一哩に亘る三十八

しての系統的計畫の下に地理的、工業的、經濟的、社會的、並に文化的要求を満たさんとするものである。更に内容的觀察をなせば、大都市に於ける交通問題は人口及工場の分散によるに非ざれば、其根本的解決は、到底不可能である。又住宅商業及工業等の各種地域の適當なる整備は無益なる人口の移動を防ぎ、家屋の密集を制限し、人口の密度と分布とを嚴重に取締る事が出来る。即英國に於て制定したる如く1エーカー當りの家屋數を制限する事が必要である。のみならず非建築地域なる農業地帯の指定は勿論、更に進んでは計畫區域内の各種土地の利用をして合理的ならしめんとする事が其目的の一つである。然して工場の分散は理論上からも又實際上からも其根據の確定性を有する事が Henry Ford の工場經營によりて如實に證明せられて居る。

大都市は社會的經濟的状態より之を觀察するも亦衛生的見地から之を見るも、實に救はれざる集合である。實に現代の大都市は既に文明の包擁し得る最大限に到達して居る觀がある、而して文化は漸次地方化しつつあるが如く想像せらる。然して地方計畫に於ける各小都市は各連鎖的關係にある都市の聯合體であると見る事が出来る。